

新生児期にみられる NBAS の変化

川崎 千里 (長崎大学医療技術短期大学)

立花 一憲 (上五島病院)

山口 和正, 川口 幸義, 穠山富太郎 (長崎県立整肢療育園)

はじめに

私達は、長崎県の五島列島の新生児行動について、ボストン小児病院の Brazelton 博士とともに、prospective な調査を行っている。今年度は、出生後一週間以内の Brazelton 新生児行動評価 (以下 NBAS) の結果の変動と、生後14日目の家庭訪問での新生児行動および育児環境について報告する。

調査対象と方法

五島列島は長崎市から船で4時間以上の距離にある離島で、生活一般や育児に古い習慣が残っている。この地域の児は、日本の子供の特徴を、ある意味では都市の子供より持っているのではないかと思われ、調査対象に選んだ。

対象児は合併症のない成熟児21名。妊娠・出産・新生児期のリスク因子は Littman らのスケールで評価し、標準値以下のものはなかった。私達の調査日程と合う出生日の児はすべて対象となり、またその自宅は列島全体にわたっているので、例数は少ないが、五島の児の状態をかなり良く反映していると期待される。

出生当日を0として、日齢1・3・7・14の計4回、NBASを行った。評価者は主に Brazelton 博士と信頼性テストにパスした2名の計3名である。14日目は家庭訪問をし、NBASの他に育児環境の調査と哺乳、遊び場面の観察を行った。

結果：日齢1-7の入院中の変動

NBASは表1の右側の観察項目を左の7つのクラスターにまとめた。NBASの変動には、児の能力や行動の変化の因子と、検査のタイミングによる反応の良し悪しという因子が含まれると思われるので、両者について検討した。

運動機能 (図1) については、比較的高い値の続く

例、比較的低い値の続く例、7日間を通して上昇する例が多かった。1例のみ著明な低下傾向があり、母親にテオフィリンが投与されていたため、これを中止し、退院後の日齢14では改善していた。入院中に反復して3回行ったNBASで、スコア1以上の上昇および低下あるいは低下および上昇の折れ線型経過を示した例はなく、運動機能については、検査のタイミングによる反応の良し悪しは少ないと思われた。

Orientation (図2)。視覚覚刺激に対する反応性は、スコアの高い例が多く、低値が持続するのは2例であった。このうち1例は母のテオフィリン投与例である。他の20例では一般状態に著変がないにもかかわらず、折れ線型の経過が一部にみられ、Orientationには検査のタイミングも影響していると思われた。

安定した覚醒状態を保つ能力 (図3) については、予想に反して、比較的高い値から低下していく例が多かった。また一部には折れ線型の経過を示す例もあり、検査のタイミングが結果に影響すると思われた。

経過：退院後の経過と育児環境

家庭訪問を20例に行った。

運動機能 (図1) は、入院中と比較して、明らかな変化はなかった。

Orientation (図2) は、平均値では日齢1と比較してわずかに低下し、個別にみると反応が良くなっている群と悪くなっている群があった。

覚醒を保つ能力 (図3) では、入院中から引き続き低下傾向にあった。個別にみると Orientation と同様に反応が良くなった群と悪くなった群があった。

考 察

新生児は従来思われていたより高い能力をもつことが最近知られ、母子相互作用において新生児側の大き

な因子と考えられている。その一方で、これらの新生児行動、たとえば追視の反応は一種の反射活動であり、その後の随意的な追視とは質的に異なるのではないかという意見もある。追視をはじめとする新生児行動は、どのような経過でより随意的な行動につながるかの観察が必要と思われる。

そこで Orientation について、NBASの他のクラスターとの相関をみた。日齢1～7のスコアの平均と、日齢14のスコアの差が0.5以上あるものを上昇・下降、±0.5以内を不変としたところ、Orientation は安定した覚醒を保つ能力に伴って変化していると思われた

(表2)。

また Orientation の変化と育児環境を比較したところ、哺乳の回数が多く、育児に祖母の介入が多い場合に、Orientationの低下例が多かった(表3)。この結果からは、ぐずりなどに対する母側の働きかけが頻繁すぎると、児自身の状態調節能力を低下させ、一時的にせよ Orientation の低下を招くように思われる。今後の経過観察が必要であろう。

これらの児は以後もフォローするとともに、現在進められている関東地区の児あるいは外国の結果と比較していきたい。

表1

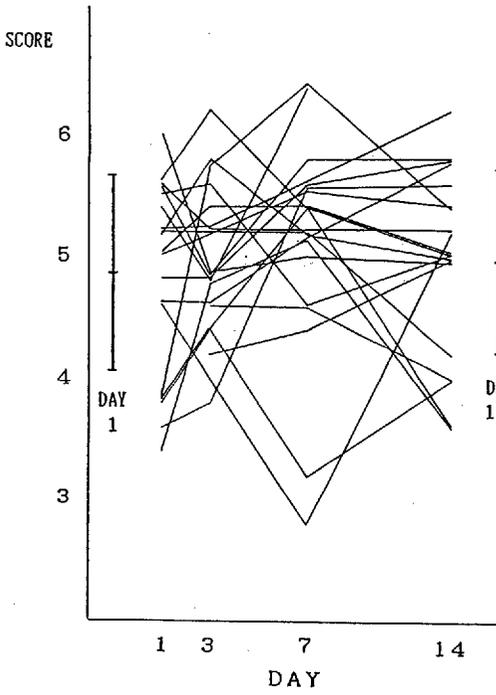
1. Habituation	Light Rattle Bell Pin-prick
2. Orientation	Inanimate visual Inanimate auditory Inanimate visual auditory Animate visual Animate auditory Animate visual-auditory Alertness
3. Motor	Tonus Maturity Pull to sit Defensive Activity
4. Range of state	Peak of excitement Rapidly of buildup Irritability Lability of state
5. Regulation of state	Cuddliness Consolability Self-quieting Hand to mouth
6. Autonomic stability	Tremors Startles Skin color
7. Reflexes	Total number of abnormal reflexes

表2

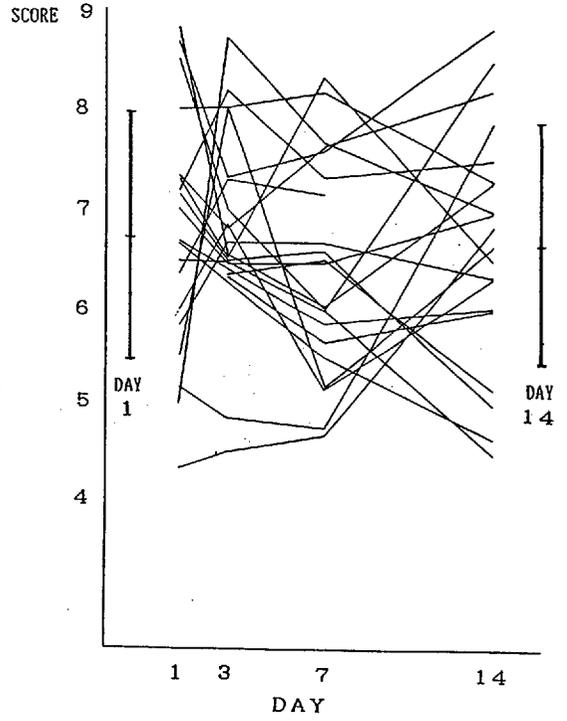
		Regulation of state			
		上昇	不変	下降	計
Orientation	上昇	3	2	0	5
	不変	1	5	3	9
	下降	0	2	4	6
	計	4	9	7	20

表3

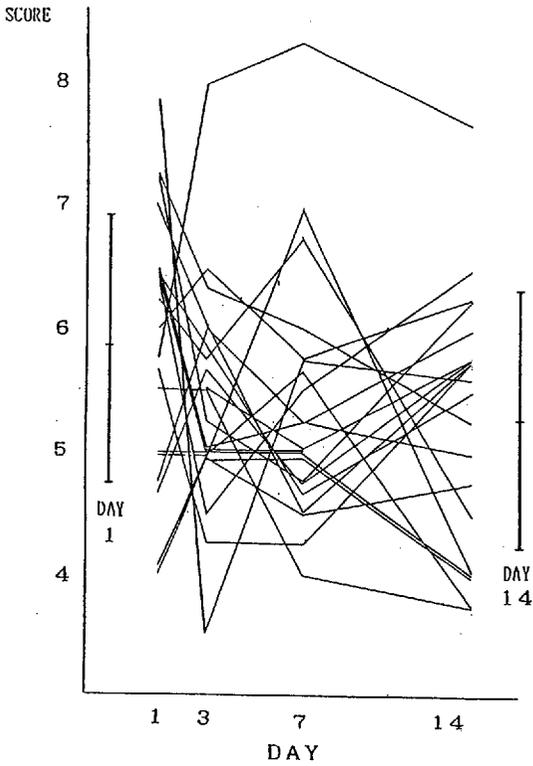
		Orientation			
		上昇	不変	下降	計
頻回哺乳		0	3	3	6/20
祖母の同居		2	4	6	12/20
訪問時	育児に祖母の介入が多い	0	2	5	7/20
	母が積極的に児に働きかける	3	3	3	9/20
	母が児に受容的な態度をとる	5	6	4	15/20



☒1 Motor



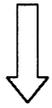
☒2 Orientation



☒3 Regulation of state



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

私達は、長崎県の五島列島の新生児行動について、ボストン小児病院の Brazelton 博士とともに、pros-pective な調査を行っている。今年度は、出生後一週間以内の Brazelton 新生児行動評価(以下 NBAS)の結果の変動と、生後 14 日目の家庭訪問での新生児行動および育児環境について報告する。